

だれが、
なんのために、
こんな牢獄を
作ったんだろう？

アマヤドリ本公演

牢獄の森

作・演出 広田淳一

6/14-16
2024 / fri sun

穂の国とよはし芸術劇場
TOYOHASHI ARTS THEATRE

PLAT アートスペース
ART SPACE

アマヤドリ
AmayAdori

PLATレジデンス事業 新作共同制作



そもそも、信じられないような速度で仮想現実の質が向上しているのだから、置き換えられる体験はどんどんノーリスクなものに置き換えていけばいいじゃないか？ それの、なにが悪いんだ？

——そんなことが進んでいったら未来はどうなるんだろう？ 本作では、そんな想像力に基づいて、近未来を舞台にした物語を描いてみたい。「AIと人類の対決」なんて構図ではなく、もっと淡々と予想図として未来の精神生活を提示して、これからの人間のあり方をぼんやり思い描いてみたい。

この作品の世界では、建前上は誰もが「自分らしく自由に」生きられる社会が実現しているが、実際は厳しい相互監視に束縛され、かなり狭められた範囲の「正解」の言動／行動しか許されない自己検閲の沼が広がっている。物語の想像力を頼りにして、戦うべき相手を見つけることさえ出来ない時代の「戦い未満の悪戦苦闘」を、なんとか描き出してみたい。

作・演出 広田淳一

あらすじ／内容

この時代において、森は牢獄の役割を果たしていた。かつての島流しのように森という異界に犯罪者たちが追いやられ、元々好き好んでそこに住んでいるものと共生していたのだ。技術の進展によって人間の多くは「つまらない仕事」から開放され、それぞれが自分の趣味や個性を伸ばして生きられるようになっていた。けれど、常にそれぞれの「最適解」がサジェストされる社会の中であって、最適でない発言や行動は厳しく制限されるようになっており、そのことへの息苦しさもまた頂点に達しつつあった。——「賢い奴隷」になって森に留まるか、「愚かな自由」を満喫するためにこの場所を捨てるのか、森の住人たちはゆるく苦悩しながら、それぞれの人生を生き延びていく。

